令和５年度　短期大学部　一般選抜　生活科学科　食物栄養学専攻

【解答例】

問１．６６字

はなは毎朝のみそ汁作りから、病気で亡くなった母親を感じ取るということ。そして、はなが作るみそ汁は、家族を元気や笑顔にするということ。

問２．６８５字

家庭における子どもの食体験について、私は必要と考える。

なぜなら、自ら健康で豊かな食生活を送るには、自らが食の知識と技術を習得し、日常の食事づくりに積極的に活用できるようになる必要があると考える。習得場所や時期については多様であるが、食事の基本は家庭であることから、家庭環境の中で習得できた方が良い。さらに、食事は日常生活に欠かすことができないため、食に関する知識や技術の習得時期は早い方が良い。保護者は子どもの年齢に応じて理解できる内容を与え、食体験を積み重ねていくことが大切であろう。

小学５年生の時、私も家庭科の授業で「みそ汁の調理」を習得した。それまではみそ汁の調理どころか、台所にすら立ったことがなかった。そのため、実習では、調理に関する知識を習得しても、実践に上手く結びつけることができず、みそ汁に使う具材を上手に切ることができなかった。班員に迷惑ばかりかけ、結局、手際よく調理ができる班員の一人が、班全体をまとめてくれ、みそ汁を作り終えることができた。この時、私は日ごろから食に関心を持って生活し、家庭では積極的に調理に携わり、包丁の扱いに慣れておく必要があると実感した。さらに、みそ汁は我が国の伝統的な日常食である。米飯と相性が良く、１食の食事には欠かせない。健康で豊かな食生活を送るためには、学校教育において習得するという受身姿勢だけでなく、日常の食事をとおして家族から継承し、家庭や地域の特性を生かした食文化に触れながら習得することで、より理解が深まることを学んだ。

このことから、家庭における子どもの食体験は、健康で心豊かな人間形成に寄与するために重要と考える。

出題意図

【出題全般】

食を通して健全な心と身体を培い，豊かな人間形成を育むことに関する課題文について，食の専門を志す受験生の「知識・技能」，「思考力・表現力」を問う。（選抜方法と学力の３要素より）

これまでの学校教育において、文部科学省が定める「学校給食を中心とした食に関する指導」を受けてきた受験生には、本課題文に対する理解は十分可能であると判断する。かつ、本課題文に対する理解は本専攻を志す上で、必要な資質である。

令和５年度　短期大学部　一般選抜　生活科学科　食物栄養学専攻

問１.

　提示された課題文における食事づくりの意義を適切に理解し，文章で簡潔にまとめられる読解力と表現力を評価する。（知識，表現力，読解力）

問２.

　提示された課題文について，これまでの自身の食体験と結びつけ，自分の考えを示す技能および思考力を評価する。さらに，誤字，脱字等に留意し，丁寧にわかりやすく伝えられる表現力を評価する。（技能，思考力・表現力）

採点基準と配点

【採点基準】

問１.

①情景を適切に理解し、文章で的確に表現されているか。

②字数制限を守っているか。

③誤字脱字がないか。

問２.

①論述に，「自身の食体験」を交えているか。

②自分の考えが明確に表現されているか。

③字数制限を守っているか。（9 割以上）

④誤字脱字がないか。